

第3次福岡市食育推進計画策定に係る
市民意見募集実施結果について

平成28年7月
福岡市

「第3次福岡市食育推進計画（案）」に対する パブリック・コメントの実施結果概要

1 実施目的

「第3次福岡市食育推進計画」の策定にあたり、市民との情報の共有をはかり、市民意見を計画に反映させるため、パブリック・コメント手続により、広く市民の皆様の意見を募集しました。

2 実施機関

福岡市食育推進会議

3 意見募集期間

平成28年3月7日（月）～4月6日（水）まで

4 実施方法

（1）計画案の公表

第3次福岡市食育推進計画（案）を、情報公開室、情報プラザ、各区役所・出張所、各区保健福祉センター健康課、保健福祉局健康増進課において閲覧・配布するとともに、福岡市ホームページに掲載しました。

（2）意見提出の方法

意見提出用紙を第3次福岡市食育推進計画（案）と一緒に配布し、郵送、FAX、電子メール及び配布場所への持参により提出いただきました。

5 意見の提出状況

- | | |
|----------|----------------|
| （1）意見提出数 | 13件（個人11名，2団体） |
| （2）意見件数 | 35件 |

6 意見の要旨と意見に対する考え方について

第3次福岡市食育推進計画（案）
市民意見（パブリック・コメント）一覧

意見提出数 13 件 （個人11名， 団体2件）

意見件数 35 件

番号	分類	章	意見要旨	対応区分	意見に対する考え方
1	目標値	3	全体的に、市民に分かりやすくまとめられている。 P26 具体的な目標値①「食育に関心を持っている市民の割合」に加えて、「食育を実践している市民の割合」を追加して頂きたい。第2次計画ではこの項目が入っているのに関心を持つだけに逆行してはよくない、何でもいいので実践してもらおうことが大切であると思う。	原案どおり	ご意見ありがとうございます。 いただいたご意見につきましては、下記により原案の通りとさせていただきます。 食育の実践につきましては、個々の主観的な評価ではなく、「バランスのよい食事をとる」「よく噛んで食べる」「市内産の農林水産物を買うようにしている」といった具体的な項目の実践状況で評価することにいたしました。
2	目標値	3	P26「充実した朝食を毎日食べている」の項目について、具体的な目標値を「欠食する市民の割合」に変更し、分かりやすくなったと思う。	原案どおり	ご意見ありがとうございます。 いただいたご意見を参考とさせていただき、計画を推進してまいります。
3	目標値	3	P26 第2次計画では設定されていた「肥満・低体重（女性のやせ）に関する目標値」について、第3次計画では、食生活の変化によるものかどうかの判断がつかないことを理由に削除されている。第2次計画では、低体重（やせ）の数値は改善されていたが、最近、低体重の若者はかなり多く、さらに深刻化することも考えられる。体重は、食事と身体活動のバランスで決まるが、やはり「食」を意識してもらうためにも目標値に入れて頂きたい。	原案どおり	ご意見ありがとうございます。 いただいたご意見につきましては、下記により原案の通りとさせていただきます。 第3次計画では、体重そのものではなく、適正体重の維持につながる食行動の実践状況で評価することにいたしました。なお、若い女性の低体重については、「健康日本21（福岡市計画）」の中で目標に設定しています。

番号	分類	章	意見要旨	対応区分	意見に対する考え方
4	目標値	3	P26 具体的な目標値⑮「学校給食における市内産農水産物利用割合（野菜主要品目）」について、P24では「重量ベースでの使用量を目標値と設定しました」と記載されているが、具体的な目標値には割合で記載されており、どちらが正しいのか。	追加・修正	<p>ご意見ありがとうございます。 ご指摘いただきました点につきましては、重量ベースでの使用量を用い、利用割合を算出しています。ご意見を踏まえ、一部記述を修正します。</p> <p>【修正箇所】 P25・1行「利用割合を目標値と設定」に修正しました。</p>
5	目標値	3	乳幼児期について、規則正しい食習慣を身につける大切な時期であり、具体的な目標（目標値）の設定を検討して頂きたい。目標設定がある方が、保育所・幼稚園や地域などが、取り組むべきことが明確になると思う。	原案どおり	<p>ご意見ありがとうございます。 いただいたご意見につきましては、下記により原案の通りとさせていただきます。 乳幼児期は発育・発達過程にあり、個人差もあることから、毎日の生活の中で個々に応じた適切な支援が行われることが重要と考えます。 日常生活の中で繰り返し行われる支援については、数値化した指標に馴染まないため、目標値としての設定は行っていません。 乳幼児が規則正しい食習慣を身につけるために、家庭においてどのような支援を行ったらいいかについては、保健福祉センター等において実施されている離乳食教室や健康教育などを通じて、引き続き普及啓発を行ってまいります。 保育所においては、保育所保育指針に基づいて、食べることを楽しみ、食事を楽しみ合う子どもの姿を目指して、各保育所ごとに実状に合わせた食育計画を立て、取り組んでおります。</p>

番号	分類	章	意見要旨	対応区分	意見に対する考え方
6	目標値	3	学校給食における地産地消は、福岡市内産に限定すると無理があるように思う。県産品も加えた目標の検討があってもよいのではないか。また、市内産の物の生産量が少ないため、農産物も品目数などでの目標は作れないか。	原案どおり	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>いただいたご意見につきましては、下記により原案の通りとさせていただきます。</p> <p>福岡市の学校給食における地産地消につきましては、品目・生産量・生産時期が限られることから、事前にJAなどの関係機関と協議を行い、できるかぎり福岡市内産品の利用に努めています。市内産でまかなえないものに関しましては、県内産、九州産、国産の順に優先的に使用しており、あくまで市内産の農水産物の使用を推進するという観点から県内産を加えた目標の設定は行っておりません。</p> <p>農産物の品目数での目標設定についてですが、市内で生産され、学校給食に使用される品目数に大きな増加を見込めないことから、市内で主に生産され、学校給食に使われている主要14品目に品目を絞ったうえで、従来通り重量ベースで目標値を算出することとしております。</p>
7	学校	4	P29「(2) 地域団体での取組み」に、学校給食の時間を十分に確保する、などを入れてほしい。中学校に通う子供が、小学校ではよく噛んで食べる指導が推進されていたが、中学校では給食を食べる時間が短く、かき込んで食べていると言っている。中学校においても給食の時間を十分に確保してほしい。	追加・修正	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>いただいたご意見を踏まえ、一部記述を追加します。</p> <p>【追加箇所】</p> <p>P27「(3) 行政の役割」の中に「食べる時間を適切に確保する」という内容を追加し、推進してまいります。</p>
8	学校	4	小・中学校で給食試食会が実施されているが、参加する保護者は食育のことを考えている方ばかりである。平日に実施されている給食試食会に参加できない保護者にも1度食べてもらう機会があるとよいと思う。例えば、アビスパ福岡の試合に合わせ、レベスタにブースを作ってみてはどうか。試合には2万人が集まり、アウェイサポーター5,000人に加え、外国人の観戦客もいるため、福岡料理のアピールの機会になると思う。	原案どおり	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>学校給食の試食につきましては、毎年11月の土曜日に開催している福岡市農林水産まつりにおいて、学校給食ブースを出して提供しております。学校給食をより多くの方に理解していただくため、このような取組みをしっかりとPRしてまいります。なお、ご意見後半部分の具体的な取組みについては、今後の参考とさせていただきます。</p>

番号	分類	章	意見要旨	対応区分	意見に対する考え方
9	学校	4	中学生の中には、たまねぎや落花生が土の中で育っていることを知らない子がいる。とうもろこしやオクラについても同様である。生産者の元へ出向き、調理・買入ができる体験が増えるとよいと思う。	原案どおり	ご意見ありがとうございます。 学校では、小学校生活科及び理科、中学校技術・家庭科において野菜等を育てて収穫したり観察したりする学習を行っています。福岡市としても、学校菜園における野菜の栽培活動を通して、児童と生産者の交流を図る学童菜園事業等を実施しています。また、親子を対象とした市内産地での収穫体験と合わせた料理教室も実施しています。学齢期における農業に関する体験活動は農産物の生産現場に関する関心や理解、及び様々な知識を深める上で重要なことと考えており、今後とも多様な体験活動の機会の提供に努めてまいります。
10	学校	3	給食時間がとても短く、食事中の私語を控えるように言われたり、食べ終わっていても、片付けに入らなければならない、結局食べ残しは廃棄されてしまう。P18「学校で学んだことを家庭で実践」とあるが、はたしてこれが子どもたちの教育に良いことなのか不安である。	追加・修正	ご意見ありがとうございます。 いただいたご意見を踏まえ、一部記述を追加します。 【追加箇所】 P27「(3) 行政の役割」の中に「食べる時間を適切に確保する」という内容を追加し、推進してまいります。
11	学校	4	朝食を食べない子どもは多大に親の影響を受けているのではないかと。朝食を食べないことがイライラにつながっているのではないかと。学校で朝食を摂取できる構内（もしくは校内）朝食の体制を作り、校内で一緒に食することにより、相互理解を深め暴力やイジメを減らせるのではないかと。	原案どおり	ご意見ありがとうございます。 朝食の大切さにつきましては、学校教育活動の中で、児童生徒に引き続き指導してまいります。また保護者に対しても、お便り等を通じて周知を図ってまいります。構内朝食（校内）につきましては、時間の確保や費用面などの課題も大きくご意見として伺わせていただきます。
12	学校	3 ・ 4	学校行事として農林水産業を体験させることで、食品ロスの軽減の意識にもつながっていくのではないかと。体験については、漁業は地びき網や海づり公園での体験、生肉はソーセージ、ハム等製作体験はどうか。また、農業従事者のコンサルタントにより、学校内で作物を栽培・収穫し、学校対抗料理コンテスト等立案すれば、一石三鳥ほどの効果が見込めるのではないかと。	原案どおり	ご意見ありがとうございます。 学校における農林水産業に関する体験については、学校菜園における野菜の栽培活動を通して、児童と生産者の交流を図る学童菜園事業を実施しております。また、中学校の家庭科の授業の中で地元水産物を使ったお魚料理教室を実施しています。今後とも多様な体験活動の機会の提供に努めてまいります。

番号	分類	章	意見要旨	対応区分	意見に対する考え方
13	学校	3	P24・32行目以降「～著しい増加は見られませんでした。これは本市の主な農産物であっても出荷時期が限られ年間を通して学校給食に使用することが出来ないことや、本市で生産されていない農産物も使用すること、生産量に対して使用量が多いため供給能力がないことなどや無を得ない事情もありました。」とした方が分かりやすいのではないかと。	追加・修正	ご意見ありがとうございます。 いただいたご意見を踏まえ、一部記述を修正します。 【修正箇所】 P24・32行 「第2次計画においては、特に野菜について著しい増加は見られませんでした。これは本市の主な農産物であっても出荷時期が限られ年間を通して学校給食に使用することが出来ないことや、本市で生産されていない農産物も使用すること、また生産量に対して使用量が多いため全量を供給することが難しいことなど、やむを得ない事情もありました。」に修正しました。
14	若者	4	せっかく幼児期から高校期まで食育の機会があっても、その後に繋がっていない気がするため、大学生に対する食育の啓発活動が必要と思う。まずは簡単にできる「自炊」を教えることから始めてはどうか。	原案どおり	ご意見ありがとうございます。 大学生を含めた若い世代に対する食育の推進は、重要なことと考えています。ご意見の趣旨を踏まえ、若い世代への効果的な情報提供や、大学や職場など若い世代と関係が深い団体等と連携しながら、取組みを推進してまいります。
15	若者	3	20代・30代世代、各世代においてバランスのよい食事を食べている市民の割合を増加させていくために、具体的にどのように推進していくのか。啓発の方法と具体的な施策まで言及されていると、さらに実現へのイメージが伝わるのではないかと。	追加・修正	ご意見ありがとうございます。 ご指摘いただきました点については、分かりやすい啓発資料の作成や効果的な情報提供方法を踏まえ、各世代と関係の深い団体等と連携しながら取組みを推進してまいります。 いただいたご意見を踏まえ、一部記述を追加します。 【追加箇所】 P18「4 ライフステージに応じた目指す姿」及びP27「1 家庭、地域（関係団体）、行政の役割」に説明を追加しました。

番号	分類	章	意見要旨	対応区分	意見に対する考え方
16	若者	2・4	若者世代は、子を産み育てる大切な年代であり、メタボリックシンドロームの原因となる生活習慣が身についてしまう年代でもあるため、その年代に健康的に望ましい食事を摂ってもらいたい。アンケートの結果では、20代は、食生活の自己評価や主食・主菜・副菜を3つそろえて食べる機会ともに最も低いものの、「料理の作り方など調理に関する情報」については最も関心が高いことがうかがえことから、若者向けの情報提供の良い方法や内容について検討し、進めてもらいたい。	追加・修正	ご意見ありがとうございます。 若い世代に対する食育の推進は、重要なことであると考えています。ご意見の趣旨を踏まえ、若い世代への効果的な情報提供や、大学や職場など若い世代と関係が深い団体等と連携しながら、取組みを推進してまいります。 いただいたご意見を踏まえ、一部記述を追加します。 【追加箇所】 P27「(3) 行政の役割」に、特に若い世代に対する取組みを追加しました。
17	高齢期	4	高齢者の個食はあまりにも寂し過ぎるため、チケットを配付してファーストフード店（和食が望ましい）での朝食の摂取を奨励してはどうか。例えば、「たまごかけゴハン定食 ¥220-」など。	原案どおり	ご意見ありがとうございます。 いただいたご意見を参考とさせていただき、計画を推進してまいります。 なお、計画の製本版では、本文以外の参考資料として「共食とこしょく」「高齢者の食事」に関するコラムを掲載いたします。
18	世代間交流	4	P32～P33に「世代間におけるコミュニケーションの機会の提供」と記載されているが、どのような方法で実現化していくのかも記載されている方がよい。学校と家庭以外の単身者家庭や独居老人などは、どのように繋がっていくのか。	原案どおり	ご意見ありがとうございます。 各地域や団体で行われている世代間交流などの優良事例を収集し情報提供を行ってまいります。 なお、計画の製本版では、本文以外の参考資料として「郷土料理の伝承を通じた地域における世代間交流」の事例を掲載いたします。
19	食文化	3・4	P17「食を楽しみ、ふくおかの食文化を伝えましょう」について、第3次計画の計画期間は、ちょうどラグビーワールドカップ・東京五輪・世界水泳2021の開催時期にさしかかります。世界中から福岡にトップアスリートやスタッフ、マスコミ等大勢の方がやってくるので、その時に自信を持って福岡の郷土料理や食材、マナー等をPRできるよう「食のおもてなし専門サポーター」等がいたら面白いと思う。	原案どおり	ご意見ありがとうございます。 いただいたご意見を参考とさせていただき、計画を推進してまいります。

番号	分類	章	意見要旨	対応区分	意見に対する考え方
20	地産地消	3 ・ 4	輸入品、加工品を中心とした安くて便利な食生活だけでは、日本の将来が心配である。福岡市は農林水産部門が「局」として残る最後の政令市であるため、地産地消をより進めてほしい。特にかつお菜や春菊などの軟弱野菜や日本一の品質を誇る「あまおう」などを、もっと市民生活に浸透できればと思います。ぜひ食育の場でも取り上げて頂きたい。	原案どおり	ご意見ありがとうございます。 福岡市としては、市民と生産者との交流や農業体験などにより、農業に対する市民の理解促進を図るとともに、市内産農林水産物の学校給食への供給拡大などを通じて消費拡大を図るなど、地産地消の推進に努めています。 今後とも、地域の伝統野菜や福岡市内で多く生産されている作物などに着目した食育に関する施策を推進してまいります。
21	地産地消	4	福岡県産の物にはマーク（ゆるキャラなど）を付け、それを購入したらポイントが溜まり、そのポイントでマーク付き商品を購入することができるようにすれば、価格が高いと答えた方々は買うようになるのではないか。また、そのマークを小・中学生を含め公募で決めれば、盛り上がるのではないか。	原案どおり	ご意見ありがとうございます。 福岡市では、平成27年4月に施行された「ふくおかさん家のうまかもん条例」に基づき、福岡市内産の農林水産物を販売・提供している事業者を認定し、専用ホームページで紹介したり、のぼりなどのPRグッズを配布する取組みを実施しているところです。 PRにあたりましては、共通のロゴマークを製作し、ホームページやのぼりなどに使用しております。このマークが浸透し福岡市内産の認知度が向上するよう引き続きPRに努めてまいります。 なお、計画の製本版では、本文以外の参考資料として、「ふくおかさん家のうまかもん」に関するコラムを掲載いたします。
22	食品ロス	3 ・ 4	P25「食品ロスを軽減するために何らかの取組みを行っている市民の割合」について、製造業や販売業等の企業努力に関心する反面、私達消費する側の意識の問題と学校給食の残滓に対する今後の指導を期待したい。「もったいない」や「限りある資源を大切に」をもっと前面に出して欲しい。また、P33「少量でも買いやすい量での販売」に期待したい。	原案どおり	ご意見ありがとうございます。 「もったいない」という精神で、食べ物を無駄にせず、食品ロスの削減に取り組むことは、食育として重要と考えます。また、現在環境局にて、「もったいない！食べ残しをなくそう福岡エコ運動」も展開しております。いただいたご意見の趣旨を踏まえ、生産から消費までの一連の食の循環を意識した食育を推進してまいります。

番号	分類	章	意見要旨	対応区分	意見に対する考え方
23	人材育成・ボランティア	2	養成講座を受講し、食生活改善推進員として実践活動している。食育ボランティアとして健康寿命の延伸に役立ちたいので、（市主導により）食生活改善推進員協議会を各校区の自治協議会に組み入れてほしい。そうすれば、会員が高齢化する中、次の世代へのバトンタッチがスムーズにでき、また、もっと主体的に実践活動が出来ると思う。	原案どおり	ご意見ありがとうございます。 自治協議会は、校区ごとの自治のための団体で、自治会・町内会のほか、様々な団体で構成されており、団体の加入につきましては、それぞれの自治協議会で話し合いにより決められるものと考えております。 なお、食生活改善推進員協議会の約3割は、自治協議会の構成団体となっております。
24	人材育成・ボランティア	4	福岡市の食生活改善推進員（ヘルスマイト）の活動校区数は、市内149校区のうち113校区にとどまっている（P4参照）ため、P27（2）に記載されている食育推進の担い手を育成していく体制の強化についてぜひお願いしたい。	原案どおり	ご意見ありがとうございます。 食生活改善推進員の活動校区を増やすためには、推進員がいる校区を増やすことが不可欠と考えます。推進員を養成する講座の実施会場や時期などを検討し、効果的な開催に努めてまいります。また、食生活改善推進以外の食育推進の担い手育成に着目した取組みも推進してまいります。
25	取組み	3	朝食を食べない世代は、この計画に接点がなく影響されないように感じた。また、複雑な家庭環境であったり、ひとり親家庭にもなじみにくい内容に感じた。「推進したいこと」が、家庭ありきの内容であり、特に食育が必要な朝食欠食世代やひとり親家庭にどのように伝えていくのかイメージができない。	追加・修正	ご意見ありがとうございます。 朝食の欠食が多い若い世代や、ひとり親世帯や単独世帯など、多様な家庭生活の状況に対応した食育の推進は重要なことと考えています。ご指摘の「推進したいこと」には、目指す姿を実現するために、世代や家族構成に関わらず一人ひとりが主体となって行うことと、行政や関係団体が行うこととしてお示ししています。 若い世代の生活の場である学校や職場、消費者との接点を持つ食品関連事業者などと連携しながら、効果的な情報提供や食環境の整備に努めてまいります。 いただいたご意見を踏まえ、一部記述を追加します。 【追加箇所】 P18「4 ライフステージに応じた目指す姿」及びP27「1 家庭、地域（関係団体）、行政の役割」に説明を追加しました。

番号	分類	章	意見要旨	対応区分	意見に対する考え方
26	取組み	4	<p>全般的にとっても大雑把で曖昧である。 P27「1 家庭，地域（関係団体），行政の役割」p28「2 具体的な取組み」について，20～30才代，高齢者一人暮らしについて，位置づけをどう考えているのか記載がない。行政の役割の部分の表現が弱い。実際の直接的な行動を取る意欲があることを表してほしい。例）地域活動に参加できない働くお母さんたちや忙しい人々，またこのような問題に興味を持っていない若い世代や役所が日ごろ接していない団体，会合への積極的なアプローチ。→FB，ツイッターの活用，ファーストフード・コンビニ企業への強制的な取組み依頼，公民館の日曜行事の活発化，若い世代が行きそうな場所でのイベント計画，若い世代が行きそうな飲食店への積極的な食育啓蒙活動利用店登録依頼の営業活動，そしてそのような若い世代の高齢者巻き込み活動への参加促進提案など。</p>	追加・修正	<p>ご意見ありがとうございます。 ご指摘の「若い世代」や「一人暮らしの高齢者」の方は，「家庭」での役割（食に関する知識や伝統を次世代に伝える役割など）を担う機会は少ないですが，「地域（関係者）」の一員としての役割が期待されると考えます。（例：ボランティアとしての役割など） また，「地域活動に参加しづらい市民への食育推進」につきましては，保育所や学校を通じた保護者への情報提供などを引き続き行うとともに，職場などを通じた情報提供なども含め，進めてまいります。 食育を推進するための活動は，自発的意思が尊重されるものでありますが，多様な関係者に食育推進の意義や目的について普及啓発し，食育推進の活動を行う団体が増えるように努めてまいります。 いただいたご意見を踏まえ，一部記述を追加します。</p> <p>【追加箇所】 P18「4 ライフステージに応じた目指す姿」及びP27「1 家庭，地域（関係団体），行政の役割」に，上記の趣旨を追加しました。</p>
27	取組み	4	<p>朝食問題について，きちんとした朝食を提供するお店に対して助成金とまではいかないが，何か優遇ができないものか。そうすることで経済も潤い，健康づくりにも役立つのではないかと思う。大学生については，福岡大学のような「100円朝食」の活動を他大学へも広げるなどサポートをしてほしい。また，何らかの理由で食べられない小学生～高校生のこどもには，朝食を提供するボランティアを育成・サポートする等の取組みの予定はないか。</p>	原案どおり	<p>ご意見ありがとうございます。 いただいたご意見を参考とさせていただき，計画を推進してまいります。</p>

番号	分類	章	意見要旨	対応区分	意見に対する考え方
28	取組み	3 ・ 4	P26「食育に関心を持っている市民の割合」の目標値90%以上を目指すには、公民館等での料理教室の実施をより増やすとよいと思う。	原案どおり	ご意見ありがとうございます。 料理教室をはじめとする食に関する体験活動は、食育に関心を持つことに繋がる効果的な取組みと考えています。ご意見の趣旨を踏まえ、行政やボランティア団体など食に関わる活動を行っている様々な関係者によって、料理教室をはじめとした体験型の取組みが地域において推進されるよう努めてまいります。
29	取組み	4	TV番組で、福岡県の方は野菜をあまり食べていないとのデータが出ており、野菜摂取量ランキングで、男性43位、女性40位とかなり低かった。長浜市場での親子魚料理教室のように、野菜直売の場所で定期的に野菜の安売り会と合わせて親子野菜料理教室を実施してはどうか。また、そもそも野菜を安く買うことのできる場所を知らないのではないか。	原案どおり	ご意見ありがとうございます。 福岡市としては、親子を対象とした市内産地での収穫体験とあわせた料理教室の実施や野菜を使ったレシピの紹介などを行っております。また、市内の直売所についてのPRもインターネットや市政だより等で実施しております。今後とも、効果的な情報提供に努めつつ食育を推進してまいります。
30	取組み	3	出汁にこだわれば減塩できます。今、かつおだしカフェが流行っています。福岡のデパートの中にも「だしカフェ」が入ってくると良いと思います。	原案どおり	ご意見ありがとうございます。 いただいたご意見を参考とさせていただき、計画を推進してまいります。
31	取組み	3	20代・30代の朝食欠食割合を27.5%→18%以下にいくために、どのような取組を行っていくのか。	追加・修正	ご意見ありがとうございます。 ご指摘いただきました点につきましては、若い世代の生活の場である学校や職場、また、食育に関心を持っていない人々も含めた消費者との接点を多く持つ食品関連事業者などと連携しながら、効果的な情報発信や食環境の整備などの取組みを推進してまいります。 いただいたご意見を踏まえ、一部記述を追加します。 【追加箇所】 P18「4 ライフステージに応じた目指す姿」及びP27「1 家庭、地域（関係団体）、行政の役割」に説明を追加しました。

番号	分類	章	意見要旨	対応区分	意見に対する考え方
32	取組み	3・4	簡潔で具体的な目標設定がされており、読みやすくわかりやすいと思った。P7「主食・主菜・副菜をそろえて食べることができない理由」について、「手間が煩わしい」「時間がない」との結果であり、またP15「目標ごとの目指す姿」では「主食・主菜・副菜が揃った食事をとること」と設定されているが、具体的解決策が記載されていない。「煩わしい」「時間がない」といった意見を少しでも減らすために、具体的な活動計画を考えてはどうか。また、市民のもとへ「出向いて」啓発するような活動を増やしてほしい。	原案どおり	ご意見ありがとうございます。 ご指摘いただきました点については、ご意見の趣旨を踏まえ、わかりやすい啓発資料の作成や情報提供、効果的な場所でのイベント開催などにも考慮し、取組みを進めてまいります。
33	取組み	3	P23「ふだんから食生活に気をつけ…」とあるが、どう気をつけたらよいか知識のない市民も多いと思われる。目標設定の「生活習慣病の予防や改善のために、食生活に気をつけ実践している」については、国の計画のように具体的な行動例を示した方が分かりやすいと思う。	原案どおり	ご意見ありがとうございます。 本計画の中では具体的な行動例として、「食べ過ぎないようにしている」「減塩をしている」「脂肪分の量と質を調整している」「甘いものを取り過ぎないようにしている」「野菜をたくさん食べるようにしている」を示していますが、今後も分かりやすい啓発資料の作成や情報提供に努めてまいります。 なお、計画の製本版では、本文以外の参考資料として、「減塩のポイント」や「野菜の上手なとり方」などを紹介するコラム記事を掲載いたします。
34	その他	4	P32「その他」の「情報提供・普及啓発・教育」と「連携や人材育成に関すること」に期待したい。	原案どおり	ご意見ありがとうございます。 ご意見の趣旨を踏まえ、効果的な情報提供や、関係団体のネットワーク強化に着目した取組みを進めてまいります。
35	その他	1	P1 食育推進基本計画は「決定」で、福岡市食育推進計画は「策定」と記載されているが、何か意図があるのか。	原案どおり	ご意見ありがとうございます。 「食育推進基本計画」は内閣総理大臣が会長の「食育推進会議」にて決定されます。

7 第3次福岡市食育推進計画（案）修正箇所一覧

（※市民意見を反映させた修正のほか、文言の修正等その他事由によるものも含む）

第3次福岡市食育推進計画（案）修正箇所一覧

計画面 該当頁	修正後	修正前
5	市民向け情報誌の発行による、…	市民向けには「暮らし上手ヒント」など情報誌の発行など、…
6	約 20 <u>ポイント</u> 低い結果でした。	約 20%低い結果でした。
9	親子2世代（子と同居）では <u>64.1%</u> 、 親子3世代では <u>69.9%</u> となりました。	親子2世代（子と同居）・親子3世代 では <u>64.7%</u> となりました。
13	といった <u>実態</u> も明らかに…	といった、 <u>新たな課題</u> も明らかに…
18～19	<p>（2）学齢期（6～15歳） 基本的な調理技術を身につけていきます。<u>なかでも学校給食は、全ての児童生徒に共通する身近で栄養バランスのとれた理想的な食事であり、実際に見たり食べたりするという「生きた教材」として、給食の時間のみならず教科等の指導においても活用することが重要です。</u>学校で学んだ…</p> <p>（4）成人期（概ね25～39歳） 成人期は青年期に引き続き、朝食の<u>摂取や野菜（副菜）の摂取量が少ない傾向が見られます。特に男性は食への関心も低く、食事の速さやよく噛んで食べているかといった「食べ方」にも課題が見られます。</u>健全な食生活を実践するためには、<u>自分自身の生活習慣を見直し、食に関する情報を積極的に入手したり、自分のライフスタイルにあった「朝食を食べる工夫」「野菜を食べる工夫」などを見つけることも重要です。</u> また、<u>家庭や地域での活動においては次世代の子どもたちと一緒に…</u></p>	<p>（2）学齢期（6～15歳） 基本的な調理技術を身につけていきます。学校で学んだ…</p> <p>（4）成人期（概ね25～39歳） 成人期は、<u>自分自身の健全な食生活を実践するとともに、次世代の子どもたちと一緒に…</u></p>

計画案 該当頁	修正後	修正前
	<p>(5) 壮年期（概ね40～64歳） <u>壮年期は、メタボリックシンドロームや生活習慣病など体調の変化が気になる時期です。定期的な健診を通してメタボリックシンドロームや生活習慣病の予防や改善につながる食を通じた健康づくりを実践していきます。また、家庭や職場、地域において、食育推進の中心的な役割を担っていくことが重要です。</u></p> <p>(6) 高齢期（概ね65歳以上） <u>高齢期になると、以前と比べ「食べる量が減った」「味を感じにくくなった」「食事の準備がしにくくなった」など、食生活における様々な変化が起こります。そしてその変化は個人によって大きく異なります。</u> <u>高齢期は、日々の生活の質を向上させ、健康寿命を延伸するために、個々の特性に応じながら、「低栄養予防」や「口腔機能の低下予防」などに努めます。また、高齢者の周囲にいる人たちも、その特性を理解し、支援することが必要です。</u> <u>一方、自分の経験や知識を積極的に次世代に伝える役割も期待されます。世代を超えた交流を通して、食事のマナーや行事食について伝承していくだけでなく、自分自身が食を楽しむ機会とするなど、食を通じた豊かな生活の実現を目指します。</u></p>	<p>(5) 壮年期（概ね40～64歳） 壮年期は、<u>生活習慣病など体調の変化が気になる時期です。定期的な健診を通して食と自分のかかわりを再度見直しながら、家庭や職場で食育推進の中心的な役割を担っていくことが重要です。</u></p> <p>(6) 高齢期（概ね65歳以上） 高齢期は、日々の生活の質を向上させるために、<u>低栄養や口腔機能の低下の予防に努めながら、食を通じた豊かな生活の実現を目指します。また、自分の経験や知識を積極的に次世代に伝える役割も期待されます。</u></p>
23	<u>外食や惣菜などへの栄養成分の量(食塩相当量含む)や熱量の表示など…</u>	<u>外食や惣菜などへの栄養成分値(食塩相当量)の表示など…</u>
24	<u>…見られませんでした。これは本市の主な農産物であっても出荷時期が限られ年間を通して学校給食に使用す</u>	<u>…見られませんでした。これは本市の主な農産物であっても出荷時期が限られ年間を通して学校給食に使用されな</u>

計画案 該当頁	修正後	修正前
	<p>ることが出来ないことや、本市で生産されていない農産物も使用すること、また生産量に対して使用量が多いため全量を供給することが難しいことなど、やむを得ない事情もありました。</p>	<p>いことや、学校給食では元来本市での生産が適さない作物も使用することなど、やむを得ない事情もありました。</p>
25	<p>重量ベースでの利用割合を目標値と設定しました。</p>	<p>重量ベースでの使用量を目標値と設定しました。</p>
26	<p>⑩「ふくおかさん家のうまかもん優先利用事業者」登録数 目標値…39 ○枠外（最下欄） （削除）</p>	<p>⑩「ふくおかさん家のうまかもん優先利用事業者」登録数*** 目標値…32 ○枠外（最下欄） ***:現状値は27年12月末現在</p>
27	<p>（１）家庭の役割 ・家庭は市民一人ひとりが食育を実践する場であり、それぞれのライフステージに応じた食育を推進していく必要があります。 また、特に食に関する情報や… ・伝えつなげる重要な場です。</p>	<p>（１）家庭の役割 ・家庭においては1人ひとりのライフステージに応じた食育を推進していく必要がありますが、特に食に関する情報や… ・伝えつなげる重要な場でもありません。</p>
	<p>（２）地域（関係団体）の役割 ・様々な機会を活用した家庭や個人への積極的な働きかけなど… ○枠内（中段）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>家庭や個人の食育推進を支援する関係団体とは・・・ 教育、保育、社会福祉、医療及び保健の関係者、農林漁業の関係者、食品の製造、加工、流通、販売、調理等の関係者、消費者団体、ボランティア団体、料理教室やその他の食に関わる活動等の関係者、民間団体など</p> </div>	<p>（２）地域（関係団体）の役割 ・様々な機会を活用した家庭への積極的な働きかけなど… ○枠内（中段）</p>

計画案 該当頁	修正後	修正前
	<p>(3) 行政の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>家庭や個人の食育推進を…</u> ・ <u>連携協力を図りながら…</u> ・ <u>中心としての役割を果たします。</u> <p><u>特に学校においては、栄養バランスのとれた学校給食を「生きた教材」として、給食の時間や各教科、道徳の時間など、教育活動全体を通して食に関する指導を進めるとともに食べる時間の適切な確保に努めます。また、児童生徒の食生活の実態について情報提供するなど、家庭にも働きかけ、家庭での食に関する取組みを支援していきます。</u></p> <p><u>また、他の世代より課題が多い若い世代（青年期・成人期）に対しては、より食育に関心を持つことができるように、インターネットやSNS（ソーシャルネットワークサービス）といった若い世代にとって効果的な情報提供や、学校や職場、食品関連事業者等と連携した働きかけなど、自ら食生活の改善等に取り組んでいけるような支援をしていきます。</u></p>	<p>(3) 行政の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>家庭での食育推進を…</u> ・ <u>連携協力を測りながら…</u> ・ <u>中心としての役割を果たします。</u>
29	<p>(2) 地域（関係団体）での取組み</p> <p>○ 校内（食を通じた健康づくりをすすめましょう）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>食の安全性を確保するための…</u> <p>○ 校内（その他）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>インターネットやSNS等を通じた情報提供</u> 	<p>(2) 地域（関連団体）での取組み</p> <p>○ 校内（食を通じた健康づくりをすすめましょう）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>食の安全性を確保するための…</u> <p>○ 校内（その他）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>ホームページ等を通じた情報提供</u>
30	<p>(3) 行政</p> <p>○ 校内（その他）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>インターネットやSNS等を通じた情報提供</u> ・ <u>イベント、教室等を通じた普及啓発</u> ・ <u>学校教育活動全体を通じた推進（保</u> 	<p>(3) 行政</p> <p>○ 校内（その他）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>ホームページ等を通じた情報提供</u> ・ <u>イベント、教室等を通じた普及啓発</u> ・ <u>学校教育活動全体を通じた推進（保</u>

